



2007 ~2008年度 RI 2640地区 I.M. 第5組

INTERCITY MEETING

記録集

河内長野RC

富田林RC

松原RC

羽曳野RC

藤井寺RC

美原RC

大阪狭山RC

河内長野東RC

富田林南RC

太子RC

藤井寺しゅらRC

松原中RC

ホスト 松原中RC

ガバナー 平原祥彰

ゼネラルリーダー 前田孝道PDG

2007年10月 14日(日)

於 すばるホール



I . M. 記録集発刊にあたり

2007年11月

I . M. 実行委員長 山本 良継

本年度の国際ロータリー第2640地区第5組のインターシティミーティングは爽やかな秋晴れのもと、10月14日すばるホールにて開催することができました。

平原祥彰地区ガバナーをはじめ多数の地区役員の方々をお迎えし、また第5組12クラブのロータリアンのご参加を頂き盛大に開催できましたこと、ホストクラブとして心より感謝申し上げます。I.M.開催に際しまして、前田孝道ゼネラルリーダの暖かいご指導を頂き実りあるI.M.となりますよう念願致しておりました。

本年度のI.M.は、地区ガバナー方針のひとつであります「ロータリーを楽しもう」のことばを受け、今年度RIテーマ「ロータリーは分かちあいの心」の精神を持って第5組の皆様とロータリーを分かちあいたいと考え企画しました。各クラブよりいただきました「クラブ現況報告」は互いに他クラブの活動状況を知ることにより、自らを活性化できるのではないのでしょうか。

また、講演ではロータリアンの国際化が望まれている中で、「異文化交流と日本人」というお話をギタリストのクロード・チアリさんに聞かせて頂きました。昔懐かしい曲を聴きながら楽しんで頂けたものと思います。

I.M.を成功に導いて頂いたのも第5組のロータリアンの皆様のご協力とご支援のお陰と感謝いたしております。

最後に、大変遅くはなりましたが、I.M.記録集を発刊させて頂く運びとなりました。なにぶん素人が作成した手作りの記録集でございまして、お見苦しい箇所もあるかとは存じますがご理解のほどお願い申し上げます。

主催役員

第2640地区 パストガバナー・ゼネラルリーダー
 ホストクラブ会長
 I. M.実行委員長

前田 孝道 (和歌山東南RC)
 松本 利達 (松原中RC)
 山本 良継 (松原中RC)

(敬称略)

来賓役員

役 職	氏 名	所属クラブ
第2640地区 ガバナー	平原 祥彰	(粉河RC)
第2640地区 直前ガバナー [クラブ奉仕部門 カウンセラー]	三軒 久義	(河内長野東RC)
第2640地区 パストガバナー [ローター財団部門 カウンセラー]	中島 治一郎	(泉大津RC)
第2640地区 パストガバナー [情報・規定委員会 アドバイザー]	中村 幸吉	(富田林RC)
第2640地区 パストガバナー [クラブ拡大部門 カウンセラー]	亀岡 弘	(泉南RC)
第2640地区 ガバナーエレクト	勝野 露観	(和泉RC)
第2640地区 第5組 ガバナー補佐	大村 充	(藤井寺RC)
第2640地区 第5組 ガバナー補佐	石倉 保彦	(河内長野RC)
第2640地区 副代表幹事	福岡 重弘	(粉河RC)
第2640地区 地区幹事	永島 龍弘	(河内長野東RC)
第2640地区 ローター財団部門 カウンセラー補佐	岩本 行弘	(富田林南RC)
第2640地区 ローター財団部門 財団奨学金委員長	吉野 惣太	(堺泉ヶ丘RC)
第2640地区 ローター財団部門 財団学友委員長	川端 健夫	(太子RC)
第2640地区 米山奨学部門 カウンセラー補佐	松下 光春	(泉南RC)
第2640地区 米山奨学部門 米山奨学事業委員長	米田 真理子	(堺フェニックスRC)
第2640地区 米山奨学部門 米山奨学事業委員	西村 元秀	(堺泉ヶ丘RC)
第2640地区 クラブ奉仕部門 情報・規定委員長	西尾 幸祐	(堺おおいずみRC)
第2640地区 クラブ奉仕部門 情報・規定委員	河村 義信	(富田林RC)
第2640地区 クラブ奉仕部門 雑誌・広報委員	河合 真吾	(河内長野東RC)
第2640地区 クラブ奉仕部門 雑誌・広報委員	松澤 政彦	(富田林RC)
第2640地区 クラブ奉仕部門 IT委員	引田 重剛	(美原RC)
第2640地区 社会奉仕部門 社会奉仕委員	杉江 徳久	(藤井寺しゅらRC)
第2640地区 社会奉仕部門 環境保全委員	山本 正明	(羽曳野RC)
第2640地区 社会奉仕部門 環境保全委員	湯川 英男	(松原RC)
第2640地区 新世代部門 青少年・ライラ委員長	瀧 成和	(富田林RC)
第2640地区 新世代部門 青少年・ライラ委員	橋本 竜也	(藤井寺RC)
第2640地区 新世代部門 青少年・ライラ委員	阿久根 紀男	(河内長野東RC)
第2640地区 新世代部門 インターアクト委員長	藤田 正俊	(松原中RC)
第2640地区 国際奉仕部門 青少年交換委員長	北島 一樹	(河内長野RC)
第2640地区 国際奉仕部門 世界社会奉仕委員	中野 一郎	(藤井寺RC)

■ 事前会議 13:00~13:50

- | | |
|---------------------|-------------|
| A. フレッシュ会員の集い | (3階 会議室3) |
| B. ローターリー財団委員長会議 | (3階 会議室2-B) |
| C. 米山奨学委員長会議 | (2階 美術室) |
| D. ローターリー情報・規定委員長会議 | (2階 会議室1) |

■ 本会議 (4階 銀河の間)

14:00 [30分]	<u>開 会 式</u>	司会 I. M. S A A	北野和男
	1. 点 鐘	ホストクラブ会長	松本利達
	2. 君が代・奉仕の理想	ソングリーダー	泉本信彦
	3. 開会の言葉	I. M. 実行委員長	山本良継
	4. 来賓紹介	I. M. 実行委員長	山本良継
	5. 参加クラブ紹介	I. M. S A A	北野和男
	6. 歓迎の言葉	ホストクラブ会長	松本利達
	7. ガバナー挨拶	第2640地区ガバナー	平原祥彰
	8. ゼネラルリーダー挨拶	ゼネラルリーダー	前田孝道
	9. 出席報告	登録受付委員長	横内 健

14:30 [60分]	<u>講 演</u>		
	講師紹介	I. M. 実行副委員長	藤田正俊
	講演 「異文化交流と日本人」 —演奏を交えて—		
	講師 : ギタリスト クロード・チアリ氏		

15:30 [60分]	<u>クラブ現況報告</u> 3分×12クラブ	司会 I. M. 副S A A 各クラブ代表者	高吉範明
-------------	----------------------------	----------------------------	------

16:30 [20分]	<u>閉 会 式</u>	司会 I. M. S A A	北野和男
	1. 総 評	ゼネラルリーダー	前田孝道
	2. 次年度ホストクラブ紹介	第2640地区ガバナー	平原祥彰
	3. 次年度ホストクラブ挨拶	太子ロータリークラブ会長	石香 亨
	4. 閉会の言葉	I. M. 実行副委員長	北里 登
	5. 手に手つないで	ソングリーダー	泉本信彦
	6. 点 鐘	ホストクラブ会長	松本利達

奉仕の理想
奉仕の理想に集いし友よ 御国に捧げん我等の業(なりわい) 望むは世界の久遠の平和 めぐる歯車いや輝きて 永久に榮えよ 我等のロータリー

手に手つないで
手に手つないでつくる友の輪 輪に輪つないでつくる友垣 手に手 輪に輪 ひろがれ まわれ 一つ心 おゝロータリアン おゝロータリアン
手に手つないでつくる友の輪 輪に輪つないでつくる友垣 手に手 輪に輪 ひろがれ まわれ 世界と共に おゝロータリアン おゝロータリアン

ピアノ演奏：泉本紀代子

■ 事前会議

A. フレッシュ会員の集い（3階 会議室3）

お名前	所 属	お名前	所 属
平原 祥彰	ガバナー	横山 誠治	藤井寺RC
三軒 久義	直前ガバナー	中井 勇一	藤井寺RC
勝野 露観	ガバナーエレクト	白井 和美	美原RC
石倉 保彦	第5組ガバナー補佐	東 英昭	美原RC
福岡 重弘	副代表幹事	飯岡 典子	美原RC
永島 龍弘	地区幹事	泉並 正	美原RC
宮沢 正久	河内長野RC	奥田 いすず	美原RC
植西 淳志	河内長野RC	黒田 裕子	美原RC
田中 正章	富田林RC	但見 淳	美原RC
寺田 廣美	富田林RC	田中 泰吉	美原RC
加藤 清久	松原RC	堀本 欣吾	美原RC
河野 幸平	松原RC	八田 眞一	美原RC
佐藤 進一	松原RC	森本 義臣	河内長野東RC
妻谷 憲一	松原RC	南 良幸	河内長野東RC
脇田 隆博	松原RC	河合 真吾	河内長野東RC
岡本 仁平	羽曳野RC	森井 義弘	富田林南RC
奥田 博行	羽曳野RC	萩 和夫	太子RC
北川 富和	羽曳野RC	内海 茂	太子RC
芝池 昭雄	羽曳野RC	三宅 茂	太子RC
高山 武志	羽曳野RC	青木 洋実	松原中RC
松浪 雄二	羽曳野RC	倉松 正人	松原中RC
山本 将之	羽曳野RC	増田 達之	松原中RC
岡田 昌文	羽曳野RC		

（平原）ロータリークラブは奉仕することによって社会貢献をしていただく人々の集いであり、そのためのルールブックがあるが、なかなか理解しにくいルールでもあるので、先輩会員と奉仕活動を共にしていただき、個々の会員がロータリーとは何かを考え、理解していただき、ロータリークラブを好きになっていただきたいと考えている。

退会者の多くは、ロータリークラブを理解する前に退会されるので、どうかルールブックを繰り返し、繰り返し読んでいただき、先輩と意見交換をし、奉仕活動による社会貢献を理解し、ロータリーを愛していただきたい。

（三軒）ロータリークラブとは何かと問うてみると、最初は職業人の相互の親睦から始まり、これだけ長期に渡り続けている組織であるのは、職業人による地域社会及び、国際社会への奉仕の理念が素晴らしいからではないか。

今日、ここに集まっていたいただいた新しい会員の皆様には個々の職業とその倫理に基づき、世

の中のために奉仕活動していただき、ロータリークラブがその活躍の場としていただきたい。

昨今、ロータリアンであった経営者の中に企業倫理に反したニュースが多々あるが、会社もロータリークラブも偉くなると下にいる者や若い人の意見に耳を傾けなくなりがちで、どうか心していただき、職業奉仕をもって社会に対して貢献していただきたい。

（勝野）ロータリークラブの基本はサービス（奉仕）である。本来、サービスの概念と奉仕の概念は同じだが、そのニュアンスに違いがあるように思う。奉仕というと少し硬いイメージがあるが、サービスというのは人々に喜んでもらえる事をする事、そしてその喜びが社会に多大な貢献をすることにつながるのだと考えている。

ロータリークラブとは、サービスをすることによって、家庭会社、友人は基より、多くの人々に喜んでいただける人間を創るすばらしい

場所であると共に、サービス精神のある人々が民族、宗教、文化伝統を越えて触れ合える場所だ。シアトルマリナーズのイチローの話をさせていただくと、野球の好きな少年が毎日コツコツ練習を積み重ねたおかげで、今日の地位を手に入れ、本人はどのような環境におかれても、自惚れることなく、多くの野球少年や人々に自分自身がひた向きに努力する姿を見ていただく

事によって喜びを与えたいと話されている。ロータリアンも同じような精神で少しでも多くの人々に喜びを与えられるサービスの出来る人間になりましょう。“初心を忘れず”人々に夢と希望を与えられるロータリアンになっていただきたいと思う。

B. ロータリー財団委員長会議（3階 会議室2-B）

お名前	所 属	お名前	所 属
中島 治一郎	地区カウンセラー（PG）	西本 儀正	松原RC
岩本 行弘	地区カウンセラー補佐	納谷 健太郎	羽曳野RC
吉野 惣太	地区奨学金委員長	後藤 幸男	美原RC
川端 健夫	地区学友委員長(太子RC)	堀田 智彦	河内長野東RC
大村 充	藤井寺RC(地区委員)	児島 和男	富田林南RC
谷 洋治	河内長野RC	浦山 正太郎	藤井寺しゅらRC
斉藤 正義	富田林RC	横内 健	松原中RC

（中島）昨年度当地区の一人当たりの寄付額は39位だった。しかし日本国内においては2770地区に次いで2640地区は2番目に高い数字だ。まず、皆様に伝えたいのは、お金ありきではなく有用なプログラムを持っているから協力していかなければならないということでご理解を賜りたいと思っている。

（岩本）ロータリー財団については4月の地区協議会、そして9月のクラブ財団委員長会議の2度に亘りましてご説明させていただいた。いつも財団奨学金にお力添えを頂き感謝申し上げます。

財団の奨学生は全世界で1999年の1333名から8年後の2007年には784名と減少している。海外へ留学される方も減少しており、例えば2002年のアメリカの統計ではアメリカへの留学が中国から2000名、韓国から600名、台湾から600名、日本からは80名と日本は極端に低い現象となっている。留学されそうな希望者がおられたら留学生の数を増やすようご協力をお願いしたい。

（中島）今年度はイギリスのウェールズ1150地区とGSEの交換が決まっている。すでに10月6日ウェールズに向けて出発した。交換なので当然受け入れもある。受け入れは来年3月29日から4月27日で地区大会に合わせて来ることになっているが、今回は第5組の受け入れはない。

（川端）帰国した奨学生が主として義務付けられていることは帰国後ロータリー内で少なくとも5回の講演を行い、ロータリー以外では3回の講演をすることになっている。皆さんのクラブが協力して頂き、これらが実行できるようお願いしたい。

（岩本）財団寄付金については3種類の寄付があり、年次基金、恒久基金、使途指定基金に分かれる。このうち年次基金は3年間運用されました後、ロータリー財団の運営に活用される。3年後に地区財団資金として50%使え、あとの50%は国際活動資金として活用される。使途指定基金については、最近ポリオプラスパートナーに随分の寄付を頂き、感謝申し上げます。

9月のクラブ財団委員長会議のときにも話があったDDFは、今後、マッチング・グラントにもDDFを活用できるよう考えている。海外のクラブと大きな事業を行う場合、今までならWCSに補助金をお願いしてきたが、条件を満たしていれば、DDFを活用でき、より大きい額の寄付が受けられるようになる。ロータリー財団セミナーハンドブックにマッチング・グラントについて非常に詳しく書いているので、ご覧いただきたい。また、プロジェクトの予定があればご相談願いたい。

C. 米山奨学委員長会議（2階 美術室）

お名前	所 属	お名前	所 属
松下 光春	地区カウンセラー補佐	橋本 竜也	藤井寺RC
米田 真理子	地区米山奨学事業委員長	堀之内 等	美原RC
西村 元秀	地区米山奨学事業委員	片山 徹	河内長野東RC
新宅 雅文	河内長野RC	越井 康之	富田林南RC
千田 佑兵	富田林RC	葉山 茂俊	太子RC
松本 慶二	松原RC	山尾 修	藤井寺しゅらRC
山本 正明	羽曳野RC	米澤 好之	松原中RC



（松下）平素は、I M第5組の皆様方には米山事業に関し、多大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この米山奨学事業は、東京RCの基金集めから始まり50余年、その間に現在までに送り出した奨学生は14,000名を超え、2640地区からも約480名の奨学生を世界に送り出している。ご存じのとおり、民間では最大の奨学事業である。最近の経済事情の中、寄付金がだんだんと減少しているが、約20億円のお金を使い、奨学事業に携わってきた。

ピーク時には年間1,000名を超えていたが、現在では800名、2640地区では今年は30名ぐらいになっている。

まず経済的な面では、基本財産として約50億円。このお金については、手をつけずに運用していく方針だ。ピーク時には35億円の特別積立金があったが、1,000名を維持していくのに積立金を取り崩し、2005年以降はその時の寄付金だけで運営することになり、800名となり奨学金も14～15万円に減額し、現在運営している。

（米田）地区米山奨学委員会では、4月には次年度のための地区協議会において米山奨学委員長会議を開催している。

5月には米山奨学生と米山カウンセラーのオリエンテーション。

6月7月8月には奨学生を推薦していただく各大学の担当部長のもとへ松下カウンセラー補佐とともに参った。

9月19～20日には1泊2日で米山奨学生、学友生とバスツアーで米山梅吉記念館を訪問した。

バスの中では米山奨学事業に対する理解を求め、記念館では1時間の研修を受けてきた。

10月初旬から文部科学省の教育事業の一環である高校生との国際交流事業に米山学友生が協力している。これは大成功のうちに進んでおり、9月25日には大阪府教育委員会が見学、新聞等マスコミの取材をうけた。



12月には学友会の総会。12月21日には東京において地区米山委員長研修セミナーが開催される。

1月には次年度の米山奨学生の選考委員会を開催。

2月には米山奨学終了歓送会。そして地区チームセミナー。

3月に次年度のための地区協議会を開催するにあたり、米山委員長会議を開催。

4月にはオリエンテーション。

このようなサイクルで地区委員会が動いている。

（松下）奨学生をお世話することに加え、元学友の方と親交を密にし、継続的にロータリアンと活動を共にしていただくことが最も良い方向だ。元米山奨学生には非常に優秀な方がたくさんおられる。

元米山奨学生の母国と日本との架け橋になっていただくことはもちろん、その活動をもとに世界平和を築かねばならないということが、日本が求めている世界平和だと考えている。そのためにも今後とも学友会との交流をますます深めていかなければならない。

D. ロータリー情報・規定委員長会議（2階 会議室1）

お名前	所属	お名前	所属
中村 幸吉	地区アドバイザー(PG)	紫垣 英昭	藤井寺RC
亀岡 弘	パストガバナー	幕内 輝夫	美原RC
西尾 幸祐	地区情報規定委員長	阿久根 紀男	河内長野東RC
河村 義信	地区情報規定委員	飯坂 忠久	富田林南RC
山崎 一弘	河内長野RC	石香 亨	太子RC
瀧 威和	富田林RC	橋本 雅宥	藤井寺しゅらRC
岩間 総一郎	松原RC	北里 登	松原中RC
井関 和雄	羽曳野RC		

(中村) 情報・規定部門において、我々が最も大切に議論しなければならないのは、クラブ細則の改定にどう対応していくかだ。本日は、自分のクラブのクラブ細則についてどのようにお考えか、そこに焦点を絞り議論を進めていただきたい。



ただ、クラブ細則に関しては、4月に行われたR Iの規定審議会の結果を受けて検討しなければならない。これは、4月22日から4日間、337件の立法案について審議されたもので、そのうち97件の案件が採択された。立法案には決議案と制定案があり、決議案とはロータリアンとしてロータリーにおいて考えるべきであることを提案するもので、制定案とはR Iの定款・細則ならびにクラブの細則、その情報について提案するものである。

(西尾) R Iのウェブサイトからいろいろな情報を得ることができるので、ご活用願いたい。この中で、標準クラブ定款が最近になってきた。これが皆様のクラブの定款になる。

この標準定款では、第5条がこれまでの第4条と第5条の間に新たに挿入された。ここでは、四大奉仕部門という条項が組み入れられた。これはCLP以来、四大奉仕を軽視しているのでは？という観点からだと推測できる。また、第7条、第8条では社会奉仕が一種の職業としてみなされるよう修正されている。第9条の出席の記録では、これまでは病気など特定の理由で理事会が承認した場合、出席免除になっていたが、7月より欠席扱いとして出席率を算定するようになった。第12条クラブ例会の出席率では、会員は少なくとも60%の出席を求められていたものが、50%の出席に緩和された。

推奨クラブ細則については、2年ほど前のCLP問題以降、クラブにて様々な工夫がみられる。特に第5組ではCLPを採用しているクラブが多い。

クラブ細則は各クラブが独自に決めることができるので、クラブ内で十分に検討していただければよいと思う。理事会構成、委員会構成についても、ある程度自由に練ることができるので、十分に検討していただきたい。

(瀧) クラブ細則では四大奉仕をメインに作成すべきと考えている。とりわけ、職業奉仕についてはロータリアンの根底の部分だと思うので、それが一番上のランクのところ載っていないのでは困る。そのあたりを強く訴えていただきたい。



(西尾) R Iの考え方としては、社会奉仕に重きを置いているように思える。その特徴として、社会奉仕をしているだけで職業(分類)として認めているからだ。私個人の考え方とは少し違っているが...

(中村) 推奨細則の日本語訳が4年に1度であるため、4年に1回、細則を見直せばいいという考え方になっている。しかし、CLPが示された当初は、四大奉仕がなくなっており混乱した。職業奉仕はどうなったかと。

クラブ細則はあくまでクラブで決めることであり、地区がとやかく言う筋合いのものではない。それがルールだ。ところが、2007年の規定審議会で四大奉仕が定款に示されたので、地区としても四大奉仕を中心にしてクラブ運営をされるのが望ましいという方針を打ちだした。ただし、CLPのこともご理解いただき、クラブとして最もクラブ活性化に繋がるようなクラブ細則を議論・検討していただきたい。

(亀岡) 四大奉仕部門は重要だ。しかし、新しい定款には第5条に、推奨細則には第8条に四大奉仕が載っている。

推奨細則では、会員増強・退会防止、クラブ広報、クラブ管理運営、奉仕プロジェクト、

ロータリー財団、この5つの委員会が常任委員会とされている。ところが、自分のクラブが運営し易いよう変更すればよい。この中に四大奉仕部門を組み入れ、そして委員会構成・理事会構成をアレンジしていただきたいと思う。

(幕内) 推奨クラブ細則は、会員数50~70名のクラブを対象に作成されていると考えられている。したがって、我々のような25名ぐらいのクラブだと委員を兼任する者がでてくる。

そこで我々は昨年度の半年間、CLPに基づき、奉仕活動を一本化した。すると地区委員長会議に出席できない事態になった。我々のように、今年は国際奉仕、来年は社会奉仕といったような一本化は好ましくないのだろうか。

(西尾) 会員の少ないところでは委員長会議に出席できないところもある。クラブ会長方針で一本化するなら、それはそれで仕方ないことではないだろうか。

(中村) あくまでRIによるクラブ細則の推奨である。クラブ細則を決めるのはクラブであり、定款に反していなければ良いかと思う。

(亀岡) 例えば、出席・クラブ会報・プログラムを1つにまとめる。そして親睦が1つ。さらに雑誌広報・ITを1つにまとめる。それぞれに委員を1人ずつおき、その上にクラブ運営委員長をおくという方法もある。クラブで上手く構成し、運営して欲しい。

ロータリーは一般の親睦団体とは意を異にする。クラブのそれぞれの特徴を生かし、CLPを利用し、今一度クラブを見つめ直していただきたい。



■ 本会議

ガバナー挨拶

R I 第2640地区ガバナー 平原 祥彰



まずは日頃から熱心にロータリークラブの活動をなさっている皆様に敬意を表したいと思えます。また、本日は松原中 R C のホストにより I . M . が開催されました。

たくさんの皆様にご参加いただきありがとうございます。

8月の終わりから皆様方のクラブを訪問させていただいており、只今で約30のクラブの訪問が終わりました。それぞれのクラブの方々はそれぞれの顔を持ち、個性を持ち、伝統と格式と誇りを持ち活動なさっていることを目の当たりに

いたしました。大変心強く、また、感謝したり感心したりとの連続でございます。

この I . M . は堺 R C がホストをなさった第8組に続き2回目の I . M . でございます。 I . M . は近隣のクラブの諸君が集まり、情報交換したり、友情・親睦を広めたり深めたり、あるいは明日の活動のため色々な仕入れをするために開催される会合であります。したがって、何とぞ有意義に過ごしていただきたいと思っております。

また、クロード・チアリさんはギターの名手だと理解しておりましたが、ご講演もいただくということで大変楽しみにしています。皆様とともに楽しみたいと思えます。

そして、この I . M . の成果を明日からの自分たちのクラブ活動に是非とも生かしていただきたいと願っております。皆様のご健闘をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

講演

「異文化交流と日本人」 —演奏を交えて—

講師 : ギタリスト クロード・チアリ氏



「講演とコンサートと何が違うの？」と聞かれましたら、答えに困る講演会でした。当初、「2~3曲演奏していただいてあとはお話を・・・」という段取りでしたが、「話と演奏とどちらを聴きたい？」というチアリさんの質問に対し、「言わなくてもお判りでしょう」とお答えしたところ、約1時間、「禁じられた遊び」「オリーブの首飾り」「夜霧のしのび逢い」など10数曲の名曲を演奏してくださいました。もちろん、ユーモアたっぷりのお話しも交え、本当にプロフェッショナルを感じさせる講演となりました。終了後もサインを書いたり、写真撮影に応じてくださるなど往年のスターを身近に感じることができ、「ロータリーを楽しむ」ことができたように思います。



親父さんの傍らで伴奏のお手伝いをしていたクリスチャン・チアリ君は「無口で無愛想」のキャラクターを演じきっていましたが、本来はひじょうに明るく礼儀正しい好青年であります。根っからの関西人キャラクターです。

■ クラブ現況報告

クラブ名：羽曳野ロータリークラブ

発表者：谷田憲一

テーマ：会員増強・退会防止

近年、ロータリークラブの会員数の減少が問題になっておりますが、当羽曳野ロータリークラブも、私が入会させていただいた平成元年には48名の会員がおられました。そして、50名を越す会員数にしようと努力されてまいりましたが、それ以降50名の声も聞くことなく、ご多聞にもれず、年々会員数が減ってきております。

2006～2007年度は、2名の入会者そして4名の退会者ということで、6月末の会員の現況は、会員数29名、平均年齢67.1才（最高86才、最低52才）となりました。

ロータリー活動を円滑に運営していく上で、会員増強、退会防止、平均年齢の低下は、クラブの存続の不可欠な要素です。

そこで、2007～2008年度 畑田会長エレクトが

予定者委員会で、本年度創立35周年を迎えるにあたり、35の数にちなんで、35名の会員数にしようとの会員増強に不退転の強い意志を表明されました。また、増強委員長は、本年度8名の新入会員の獲得を目標に掲げ、委員長はじめ会長、幹事、役員、メンバーでもって、6月中に、入会可能な人々に連日アタックしていただきました。そして、本年度年初7月に、5名の新入会員に入会していただくことができました。さらに、本年度中にあと3名、都合8名の入会を予定しております。

私も過去、会員増強委員長を経験しましたが、思ったような成果を上げることはありませんでしたが、今回、クラブ存続の危機感と、会長、幹事、役員、メンバーの強い意志と努力でもって、目下のところ、初期の目標を達成しつつあります。

最後に、会員増強は、強い意志と日頃の地道な努力の積み重ねだどつくづく感じさせられました。

クラブ名：太子ロータリークラブ

発表者：石香 亨

テーマ：退会防止について

1. ロータリーの良さを早く知ってもらう。
 - (イ) 入会時、すぐにクラブフォーラムをひらく。
 - (ロ) CLPを採用しているので、できるだけ多くの委員を兼ね、それぞれの会議に出席する。

(ハ) 他クラブへのメーキャップを奨励し、できるだけ多くのロータリアンに接するように努める。

(ニ) 地区大会には夫婦そろって出席し、できれば国際大会にも参加する。

2. 魅力的な家族例会を考える。

例 (イ) 桂離宮などを訪れる。

(ロ) 海上自衛隊の基地を訪れ、乗艦、潜水艦乗艦等を体験する。

(ハ) 友人同士の観劇、音楽鑑賞等を実施。

3. とにかく早く、ロータリーの良さを家族ともども知ってもらうよう努力する。

クラブ名：富田林ロータリークラブ

発表者：田中正章

テーマ：会員増強・退会防止

我がクラブは今年度、道田会長のリーダーシップの下、活動を行っておりますが、会員増強に関しては、1ヶ月に1度、「新会員推薦カード」を例会参加者に配布し、全会員の協力体制を敷き、全会員に増強意識を持っていただくことにより、新入会員の増加を図っています。

しかしながら、ロータリークラブの会員になっていただくということは、どなたでも良いというわけではありません。奉仕の理想や4つのテストについて理解して頂け、金銭面では、自らの今の成功に感謝の気持ちを持ち、社会への奉仕のひとつとして、気持ちよく協力して頂ける方でなければなりません。よって新会員を推

薦していただくには先ず職業分類委員会で、未充填職業分類であるか、小業種職業分類において重複しないかを検討した上、理事会で図っていただく。また会員選考委員会でも適格性を精査した上で、委員会の決定事項として理事会に提出、理事会での承認を受け全会員への告知をする。その後、再度理事会で決定を下し、推薦者へロータリークラブとして入会を歓迎する旨を伝え、そこで初めて本人へロータリークラブへの入会勧誘を行い、入会という流れをとっています。

退会防止に当たっては、会長自ら欠席会員への連絡を行い、健康上の問題がないか、例会で他の会員がどれだけその方の出席を待ちわびているか、また各活動、行事への参加を呼びかけ、本人のロータリークラブに対する意識、気持ちの再燃を喚起するよう誠意を込めた活動を行っていただいております。

クラブ名：富田林南ロータリークラブ

発表者：土井 彰

テーマ：会員増強・退会防止

会員増強、退会防止に関しては、かねてより問題が指摘されており、各ロータリークラブでの緊急のテーマとして取り上げられております。

当クラブでも、クラブ設立後9年、10年（1997～1998）頃は、在籍の会員数が40名となっておりますが、設立19年を迎える今年度（2007年）は21名の会員となっております、ピーク時より比べますと50%のレベルとなっております。

また、入会者の推移を見ますと、クラブ設立以来10年（1998年）頃までは、毎年4～5名の入会者を記録しておりましたが、昨今では、1名の入会者があるかどうかの状態となっており、退会者が2～3名も出れば、会員数は純減となります。

このような厳しい現状を顧みます時、100%うまくいく解決策を見つけることは、大変困難なことと思いますが、むしろロータリーの原点に立ち返ることにより、この問題に対処できる心

構えが作られるのではと考えます。

1. 私自身もロータリーに入会して17年になりますが、初めは入会を誘われても、会社の仕事が忙しい（等）の理由をつけて、なかなか決心が出来ませんでした。
2. しかし、入会してみると、今までまったく知らなかった会員から声を掛けられ、クラブ例会で各委員会の奉仕を通して、多くの人たちと親しくさせていただき、利害を超えたお付き合いが出来るようになりました。
3. 本来であれば、一生涯、お話をすることも無く、面識も無く、まったく関係の無かった人たちと、“ロータリーの会員”ということだけで、友人として、仲間としてお付き合い願えることは、素晴らしいことと考えます。
4. まして、お互いに協力して、“奉仕”に参加できることは、金銭で買うことの出来ない、大変貴重な経験かと考えます。
5. このようなロータリーの持つ“特徴”を友人、知人に紹介することにより、今後の“会員獲得”につなげて行きたいと考えています。

クラブ名：河内長野ロータリークラブ

発表者：土井 昭

テーマ：会員増強について

会員増強は、増強委員会だけで会員増強をやるのではなく、クラブの会員メンバー全員が増強しよう、メンバーを増やそうという気持ちになるような事を増強委員会でやる。例えば、会員同士プライベートな時間に食事などしながら増強について語り合う。そこから出てきた話にメンバーの子供や孫を入会させる。ただし同じ

クラブでは嫌がることもあると思うので、河内長野ロータリークラブの子供や孫は、河内長野東ロータリークラブに入会してもらう。河内長野東ロータリークラブのメンバーの子供や孫は、河内長野ロータリークラブに入会してもらう。お互いのメンバーの子供をトレードするというやり方はどうだろうかと前期の会長同士で語り合ったことがある。このアイデアはいけるんじゃないかと思っております。

現況報告としては、河内長野ロータリークラブでは、9月に1名の入会者が決まりました。



クラブ名：大阪狭山ロータリークラブ

発表者：丸山建夫

テーマ：会員増強・退会防止について

私どものクラブは、数年前、大幅な会員減となり会員数も6名となりました。そして、その時の会員各々の決意は、会の存続と、記念事業の完遂と、大阪狭山に2ヶ所（狭山池、大野総合グラウンド）にあるロータリーの森を守り維持していくことでした。

会員を増やすことは、会員の意見として、今の段階では良しと考えられないということです。そして、増強ということになれば、現会員

各々と同等以上の資質のある人物を探し求めたいと思います。

退会防止については、会員各々の職業が異業種であり、又、それぞれがその業の中で重要な位置を占めており、毎週行われる例会において述べられる意見は貴重であり、又、少人数であるが為に派閥も無く、何か行事がある度に全員参加で行なっています。したがって、私どものクラブでは、自然退会以外は無いいといえます。

仲良し会と言われればそれまでですが、会員各々が例会の来る日を楽しみにしています。それが退会の防止ということになります。

クラブ名：河内長野東ロータリークラブ

発表者：四宮章夫

テーマ：CLPの導入について

河内長野東ロータリークラブでは、平成18年11月29日クラブ細則を改正し、CLPを導入しました。その結果、役員は、会長、会長エレクト、副会長、幹事、会計、SAAの6名とされ、役員及び直前会長と、4名以上の理事の合計11名によって理事会が構成されることになりました。SAAを役員としたのは独自のアイデアです。

また、常設委員会は、①会員増強・退会防止委員会、②クラブ広報委員会、③クラブ管理運営委員会、④奉仕プロジェクト委員会、⑤ロータリー財団委員会、⑥米山奨学会委員会の6委員会と定められ（⑤と⑥とを統合する選択肢もあり得ます）、4名以上の理事と役員とが率いることを予定しています。2007～2008年度の常設委員会については、管理運営委員会は副会長が委員長に就任し、他の5委員会は5名の理事が委員長に就任しています。

会長エレクトは、ロータリー年度の開始に先立つ準備を整える一環として、特別委員会を設けることができるとされており、2007～2008年度については常設委員会の下に特別委員会が設

置されています。主なものは、広報委員会の下、②1 雑誌・広報・IT委員会、②2 会報・資料保存委員会。管理運営委員会の下、③1 親睦委員会、出席・ソング委員会、③2 プログラム・規定・情報委員会。奉仕プロジェクト委員会の下、④1 社会奉仕委員会、④2 新世代委員会、④3 職業奉仕委員会、④4 国際奉仕委員会です。これは、DLPからCLPへの過渡期においては、DLP時代の委員会構成をも尊重する精神から出たものです。

しかし、会員数が減少傾向を示す中では、これらの特別委員会を廃止し、クラブ広報委員会の活動は一元化し、管理運営委員会についても親睦担当と例会担当とを任命し、奉仕プロジェクト委員会についても社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕の各担当を任命することによっても、クラブ運営方針を策定することが可能です。

従前のDLPの下では、沢山の委員会の委員長、副委員長、委員を選ぶためには、不可避的に兼務が増加し、その結果として、委員会活動が形骸化し、クラブの活力が削がれるという傾向が見られたと思います。組織を合理化し、クラブの活動をその規模や歴史に相応したものとし、全ての委員会活動において確実に成果を挙げていくことによって、初めて、クラブが活性化されていくのではないのでしょうか。



クラブ名：松原ロータリークラブ

発表者：岡田安司

テーマ：GLPについて

2004年11月会合において、RI理事会はクラブ・リーダーシップ・プランをロータリーのための推奨管理構成として承認しました。各クラブは、いつでもこのプランの施行を選択することができますし、義務付けられているわけではありません。

しかし、地区では着々とGLPに基づく会議の進め方が諮られています。つまり、地区リー

ダーシップ・プランを延長し、クラブのレベルに応用したもので、目標設定（長期および年次）やプロジェクト管理において、指導者間の継続性と一貫性を培うと謳っています。

ところが、具体的に進めるに当たりどうすればいいのかが全く検討されていません。次年度に委員会構成を担当する立場としては大変困ります。そこで実際、近隣クラブの実例を参考に具体的に出来る方法を模索したいと考えています。例えば、お隣の松原中RCさんが実施されているような委員会構成についても検討あるいは勉強していきたいと思っております。

クラブ名：藤井寺しゅらロータリークラブ

発表者：細木 博

テーマ：WCSバングラディッシュの井戸の現状について

2002年12月までに、ロータリー100周年記念社会奉仕プロジェクトの募集があり、水の保全と健康向上については海外も認める旨通知があったので、「渇くアジアと世界に水を」プロジェクトを展開する社団法人アジア協会アジア友の会のバングラディッシュ・ダッカが、1994年以来、年間10基の井戸掘りの目標を持ちながら、皆の関心が少ないため、インド、スリランカなどに比べ半分も目標が達成されていない状況で、支援を必要としていた。2003～2004年RI会長ジョナサンB. マジアベ氏が、「手を貸そう（Lend a Hand）」の展開・呼びかけに応えるものとしてプロジェクトを立ち上げた。

2003～2004年度には、バングラディッシュのノアクハリ地区に（ダッカの南東150km付近）に深井戸3基を寄贈。翌2004～2005年度には、和泉南RCの他IM5組の8クラブの支援を得て7基を贈ることができた。ロータリー100周年記念・RI第2640地区と、寄贈協力クラブ名のプレートを付けたポンプ式深井戸（30～50m）10基を、皆さんのご支援とWCSファンドのお陰で贈ることができた。

バングラディッシュは、日本の3分の1の面積で、ちょうど北海道と九州を足したぐらいの面積に、1億3千万人が住んでいます。1人あたりの

GDPは、US220ドルと、日本の100分の1であり、国連からも最貧国と位置づけられている。5歳未満の死亡率は非常に高く、その主な原因が汚染された水にあるとされている。

また、砒素ネットワーク（日本のNPO）の調べによると、国土の4分の3が土壌汚染されており、その影響は、200万人に上っている。加えて、雨季（6月～10月）にはヒマラヤ山脈の雪解け水の90%が、ガンジス河、ブラマプトラ河より毎年ベンガル湾に流れ、洪水の被害を巻き起こしている。多くの農林地帯では、溜め池や川が水の供給源となり、飲料水、洗濯、家畜も全部同じ水を使用するため、非常に生活は非衛生的であり、水の保全と健康の向上のため安全な水が必要とされている。

2006年以降も、5基の深井戸と砒素に汚染されている井戸に除去フィルターを4基寄贈することができた。

深井戸1基の経費は12万円、5ヵ年の自主管理・指導のための経費3万円。1つの井戸から15～20世帯、200人近い人が、間接的には7000人もの人々が恩恵を受け、命を救うことができていると、AFS-Dhakaよりの報告をいただいている。

代表者のM.H.Zaman氏は、RI3280地区ダッカ・コスモポリタン・ダッカRCのバスター会長で、現在はカナダ在住とのことだ。

尚、寄贈15基の深井戸からは、現在のところ砒素は検出されていないとのこと、今後も砒素ネットワークの協力を得て、定期的に調べていただくことになっている。



クラブ名：美原ロータリークラブ

発表者：小池秀樹

テーマ：WCS活動について

今年度のWCS活動の対象国はタイ国です。名称は「リサイクル自転車プロジェクト」と申しまして、日本の放置自転車、(財)自転車駐車場整備センターの力を借りて集められた自転車に新品のタイヤに交換し整備しなおしてタイの農村部の学校へ送っています。

この活動は、タイのバンコク・スリウォンRCが始めたプロジェクトで、今やタイ国政府社会福祉局との合同プロジェクトとなっており、当クラブはそれに支援している形を取っております。

この活動への参加は、数年前から行っており、今では、当クラブが送った自転車だけでも約5千台になりタイの子供たちの通学の足として使われています。各自転車には、ロータリークラブのマークと支援したクラブの名前が書かれたステッカーが貼られています。

この話をすると「R I テーマの“識字率向上”とリサイクル自転車にはどういった関係があるのですか？」という質問を時々受けるのですが、タイの農村部では、未だに識字率が大変低く農家にとって子供は、立派な農作業の人手であり、早朝から親と共に農作業をし、その後学校に行き、学校が終わると直ぐに帰り、また農作業を手伝います。ほとんどの子供たちは、貧しいのでバスに乗ることもなく徒歩で通学しているのですが、都会のバンコクではなく、学校が少ない郊外の農村部であるがために、片道

2時間以上歩いて通っている子供も珍しくありません。そういった環境なので、日々の農作業で疲れた子供たちはだんだん学校に行くのが億劫になり、終には学校へ行かなくなってしまいます。

先日ニュースで言っていました、教育相が調べたタイ人の平均読書量は、たった8行だったそうです。識字率が低いというのも原因の一つだそうです。

もうお分かりでしょうが、このWCS活動は、そういった通学の問題を解消する為のプロジェクトなので、R I テーマの“識字率向上”に合致していると当クラブでは考え、今年度もこの活動を行う予定です。実施日は10月29日、場所はナコンパトムで授与式を行い、式典に参加する予定です。

一度の贈呈式に約450台の自転車を持っていくのですが、自転車は個人に贈呈するのではなく学校に贈呈し、割り当ての台数などは、贈呈が行われる現地のロータリークラブが学校と相談し決定します。

各学校には10台から30台の割り当てとになってしまうのですが、遠い所では授与式の会場にバスで片道6時間位かけて引率の先生と代表の生徒達がやってきます。参加者の子供の中にはサイズの合わない借り物の制服を着て来たり、靴もなく裸足で来る子もおり、過去には鉛筆や消しゴム、パンク修理キットなどもスーツケースにいっぱいに詰め込んで持って行き授与式の会場の子供たち一人一人に手渡しで配ったこともあります。



クラブ名：藤井寺ロータリークラブ

発表者：紫垣英昭

テーマ：クラブ財政問題について

現在、ロータリークラブ全体の問題として会員数の減少に伴い、クラブ運営についての財政問題は、極めて重要な問題となっております。

当クラブは、会員数が12名と、少人数でクラブ運営を行っております。したがって、限られた会費収入でクラブ運営を行うには、諸先輩方からのご指導のもと、会長、幹事、そして各委員長の多大なるご協力を得ながら、クラブ財政問題に取り組んでまいりました。

まず、当クラブでは、4つの重点項目に特化し、財政問題に取り組んでおります。

事務局の運営方法について

例会時の飲食について

週報等、印刷物の問題

会費の問題です。

先ず一つ目の「事務局の運営方法について」ですが、当クラブでは、事務局員を週3日、1日5時間という「パート制」で雇用しております。これによって、人件費の削減に大きく寄与しているものと考えております。

実際の事務作業については、週3日、1日5時間というタイムフレームの中で、効率化をはかることで、十分可能であります。これについては、会長、幹事、並びに各委員長同士が相互に連絡を行うことで、事務処理の効率化を図ることで実現しています。その分、会長、幹事、各委員長が相互に連絡を行っているため、若干負担がかかっているのも現状です。しかし、結果的に見れば、そのことが事務局の効率化と、会員同士が責任感を持つことに貢献できているものと思われまます。

二つ目の「例会時の飲食について」ですが、当クラブでは予算の都合上、食事は出しておりません。また、「コーヒブレイク」時におきましても、お茶や缶コーヒーに変更することで、経費はもとより、手間や時間の節約にも成功することができていると考えています。

そして、三つ目の「週報等、印刷物の問題」についてですが、当クラブでは、週報等は、約7年前からクラブ内のパソコンで作成し、プリンターで当日分を印刷し、例会時に配布しています。設備なども一部は、会員からの寄付などでまかなっております。週報の原稿についても、例会時にはICレコーダーで録音をし、事務局員がテープ起こしを行い、週報をパソコンで作成しています。また、当日発表のあった、会長挨拶、幹事報告、委員会報告、卓話などは、発表者から直接、原稿、また画像といったものを

事務局に送付することを、ある程度義務付けることで、事務局の作業効率を図るとともに、記述の間違いなども防止することにも役立っています。

これまでは、主に経費削減についてのお話でしたが、財政に直接関わる問題として、四つ目の「会費の問題」があります。当クラブの会費は、創立以来、30年以上にわたり、月額2万円と比較的安い金額で運営を行っています。現状、厳しいながらも何とか現行の収入の範囲で運営を行っています。これには、「当クラブ独特の運営システム」の存在が、クラブ運営を可能としていると考えています。

当クラブでは、必要な奉仕活動について、その都度、会員から徴収を行っています。これを可能にしているのが「良い雰囲気でのクラブ運営」です。必要な奉仕については、時の会長、幹事、各委員長から各会員に対して、その都度ごとにお話しさせていただき、奉仕活動に対する活動費の拠出を個々の会員に理解いただき、協力していただいています。つまり、クラブ運営について「良い雰囲気」を作ることで、協力体制がスムーズに機能するシステム作りを行い、解決してきました。

現状、12名の会員でも何とか運営は行えますが、しかしながら、当然、この運営システムであってもデメリットは存在します。デメリットについては、地域の奉仕活動について、その都度、お願いし協力していただけるのですが、「普通寄付」について、なかなか実行しにくいという側面があります。つまり、個人負担が大きくなるため、時の財団、米山委員長には、大変ご苦勞をいただいているのが現状なのです。また、新しい奉仕活動についても、どうしても予算の壁があり、実行レベルについては、かなり厳しいと言わざるを得ないのが現状です。これらが、我々が感じているデメリットの部分です。

最後に、私たちからの「問題提議」として、増強することが難しい現在では、今後、少人数クラブについて、新しい運営システムの構築が急務ではないかと考えております。当クラブの「良い雰囲気作り」という運営システムの背景には、会長、幹事、各委員長の多大なるご協力、そして、諸先輩方々からの適切なお指導があってはじめて成り立つ「クラブ運営システム」であると考えております。

したがって、「クラブ財政問題」というのは、一見、金銭的問題であるように感じますが、その答えは、クラブの個々の会員の「心の部分」に解決の糸口があるように思われます。

クラブ名：松原中ロータリークラブ

発表者：泉本信彦

テーマ：クラブ財政問題について

営利団体ではないロータリークラブにおいても、財政問題がこれほど重要になってくるとは、17年前の創設時には考えもつかないことでした。このところ、世の中の景気が回復してきたとはいえ、中小企業における余裕のない状況は引き続いており、会員の減少から生ずる財政難は致し方ないことかもしれません。もちろん、退会防止、会員増強にも力を注いでいただいておりますが、それならば現状でもやっつけける体制をということでは、ECO(ECONOMICAL CLUB OPERATION)を立ち上げ、クラブ運営資金に関して以下の4つの項目で取り組みました。

1) 例会会費の削減

例会時の食費の見直し、及び例会欠席の事前報告を徹底させ、実出席数に合わせての食事の用意で、無駄が無いように努めることで、予算ベースで40%の削減を予定。

2) 人件費の削減

事務局の執務日を火曜日～金曜日の週4日とし、さらに1日5時間の雇用で、時間の短縮を図り、

パソコン業務に長けた事務員に交代して効率化を進めました。その結果、約40%の人件費削減となる予定。削られた時間帯については、会長、幹事並びに各会員の連絡をメール等で密に行うことで補うこととなります。

3) 週報、印刷物の費用節約

コピー機のリース期間の満了にあたって、カラーのコピー機に変更し、クラブ内のパソコンで週報の作成を行うことにしました。会員の協力もあり、リース契約の見直しにより、かえって印刷単価も安くなり、印刷費、会報費合わせて、やはり40%削減が可能と見なされます。もちろん、新事務員のパソコン能力をフルに発揮していただくこととなります。

4) ソングの伴奏のCD化

従来、例会時のソングの伴奏をしていただいたピアノの先生には、今期よりご遠慮いただいて、目下CDの伴奏に切り替えることにより、人件費の削減を行いました。

基本的には、会費、親睦費の値上げをせずに、支出のみの削減で対応しようと考えた結果が以上のような対策になりました。どうしても固定費の部分の削減が大きくなりますが、会員一同、団結してこの局面を切り抜きたいと考えています。





総 評

ゼネラルリーダー 前田 孝道

長時間にわたる I.M.第5組の会合に最後までお付き合いいただきありがとうございました。皆様方のお陰をもちまして素晴らしい I.M.になりました。

今日の午後1時から開催されました部門別事前会議は大変意義のある会合になりました。そして開会式、それに続くクロード・チアリさんの演奏とギター。これも素晴らしい、楽しい演目であったと思います。クロード・チアリさんのユーモア溢れるお話しが、ギターの演奏をより一層引き立て、私たちを楽しませてくれました。

そして、先ほど行われましたクラブ現況報告。会員が減少しつつある中で、クラブの皆様が創意、工夫、努力を重ねクラブを維持なさっておられる姿、また様々な奉仕活動において本当にご苦労なさっておられる姿を垣間見ることができました。費用の問題やその他の理由により会員が減少するとクラブの運営は難しくなります。そこを何とか一生懸命考え、英知を結集し、クラブの運営にあたっておられる姿に涙ぐましい思いがいたします。しかし、会員が極めて少ないにもかかわらず、そのような気配も無い「楽しいロータリーだ」という気持ちを表しておられるのに感動を覚えました。

この調子でいきますと日本の経済はまだまだ厳しいものがあります。これから上り坂になっていくことは考えられません。横ばいが精一杯だと思います。ですが、我々ロータリアンは手をとり合い、楽しい例会を開いていただきたいと思います。

私がエレクトの時、アメリカでガバナー研修を受けました。その際に「入りて学び、出て奉仕せよ」という看板が入り口に掲げられていました。私は、ロータリーの会合、例会であろうと I.M.であろうと地区大会であろうと国際大会であろうと常に会合に入っていく、そして学び、それをロータリーの奉仕活動に生かしていこうと考えています。毎週1回の例会において学び、そして奉仕活動に生かしていこうと思います。

皆様、どうぞご健勝でロータリー活動に励んでいただき、楽しい例会を開いていただくようお願い申し上げます。

本日は長時間にわたる I.M.にお付き合いいただき誠にありがとうございました。また、いろいろご指導いただきました指導者の方々に厚くお礼申し上げます、ゼネラルリーダーの総評とさせていただきます。

INTERCITY MEETING

〈 ホストクラブ 松原中ロータリークラブ 〉

会 長	松本 利達
幹 事	樋口 吉美

委員長	山本 良継
副委員長	藤田 正俊
副委員長	北里 登
幹 事	樋口 吉美
会 計	泉本 信彦
副会計	竹本 芳司
SAA	北野 和男
副SAA	高吉 範明
ソングリーダー	泉本 信彦

開 催 日 : 平成19年10月14日
場 所 : すばるホール(富田林市)

I. M. 実行委員会

委員会		委員長	副委員長	主 な 仕 事
①	総務 (会計)	泉本 信彦	竹本 芳司	全体の掌握 各クラブへ出席勧誘
②	企 画	関井 皓司	柴田 勝久	ミーティング内容検討(南輪会と) 案内用プログラムの作成・印刷 当日用プログラムの作成・印刷
③	会場・設営 (飲物)	岩城 信宏	土師 薫 青木 洋実	会場の設営・運営 駐車場設営・管理
④	接 待	米澤 好之	山本 敏広	ガバナー、パストガバナー地区役員 ホストメンバーの昼食
⑤	登録受付	横内 健	吉村 英夫 西亀 辰彦	受付の設営 管理・運営 第5組登録者・出席者を把握・発表
⑥	記 録	岡 譲次	木本 圭二	写真撮影 4委員長会議の議事録音 本会議の議事録音 記録誌を編集印刷
⑦	救 護	上西 義隆	増田 達之	
⑧	SAA	北野 和男	高吉 範明	
⑨	ゴルフ	北野 和男	吉村 英夫	



お礼のことば

2007年11月

ホストクラブ会長 松本 利達

まずは、過日10月14日に開催させていただきましたI.M第5組にたくさんのロータリアンの皆様にご参加いただき、衷心より厚くお礼申し上げます。

思い起こせば、開催の半年前にはゼネラルリーダーでおられる前田パストガバナーに色々ご指導を賜り、第5組の会長・幹事会でご検討いただき、本当に多くのご理解、ご協力を頂戴し開催に至りました。

第5組におきましては、12年に1度ホストクラブが廻ってくるのですが、12年前とはクラブの状況もすっかり変わっておりますし、また12年前の記憶を辿ってもしっかりと答えが見つかりません。いわば暗中模索の状態でのスタートでした。しかし、クラブ内では「何か新しい企画を」と会員で知恵を絞り、連日議論をかわしました。その結果、会員が一丸となり「I.M.を成功させよう」という気概が高まり、会員の相互理解の一助にもなったように思えます。

そして何よりも「クラブの現況報告を發表していただきたい」という投げかけに対し、二つ返事でご理解いただき、素晴らしい發表をしていただいた第5組の仲間の皆様に心から感謝申し上げます。皆様方のお陰で今回のI.M.のメインプログラムを立派に遂行することができました。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に深謝申し上げるとともに、今後とも第5組の全クラブにご厚誼を賜りますようお願い申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。





**ロータリーは
分かちあいの心**